

対象規格	JIS G 0201[鉄鋼用語(熱処理)]
------	-----------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	東理大	田中	全体		ge	定義に出てくる記号“Ar ₁ ”、“Ar ₃ ”、“Ac ₁ ”、“Ac ₃ ”、“A ₁ ”及び“ _{A₃} ”は、出現する箇所で説明したほうがよいではありませんか？、		修正採用	“Ar ₁ ”、“Ar ₃ ”等は、現版同様、変態温度(1302)で集約した説明を維持します。また、用語番号(2101)等で使用している“A ₁ 及びA ₃ ”は、ISO 4885で使用しており、同用語番号の注釈2に下記の説明文を追加します。 また、ISO規格では、A ₁ 及びA ₃ を以下と定義している。 A ₁ : 平衡状態の鋼でオーステナイトが存在する下限温度 A ₃ : 平衡状態の鋼でフェライトが存在する上限温度 また、“A ₁ 及びA ₃ ”を“A ₁ 変態点及びA ₃ 変態点”に修正します。 (用語“変態点(1302)”参照。)	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4002	東理大	田中	4 a)	1104	ed	平仮名に変更	浸漬させて → 浸せきさせて	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4003	東理大	田中	4 a)	1106	ed	小文字に修正?	Thermomechanical → thermomechanical	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4004	東理大	田中	4 a)	1113	ed	“い”を挿入	いな場合には、 → いない場合には、	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4005	東理大	田中	4 a)	1116	ed	スペルミス	seasonig → seasoning	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4006	東理大	田中	4 a)	1210	ed	漢字に変更	はん点 → 斑点 内部き裂 → 内部亀裂	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4007	東理大	田中	4 a)	1215	ed	読点を挿入	σ相とはクロムを → σ相とは、クロムを	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4008	東理大	田中	4 a)	1218	ed	漢字に変更しますか?	熱き裂 → 熱亀裂 き裂 → 亀裂	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4009	東理大	田中	4 a)	1324	ed	読点を挿入	再結晶し結晶 → 再結晶し、結晶	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4010	東理大	田中	4 b)	2103	ed	字句の修正	保持したのち徐冷して → 保持した後、徐冷して	修正採用	”保持後、徐冷”に修正します。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4011	東理大	田中	4 b)	2104	ed	読点を挿入	目的でAc ₁ 変態点 → 目的で、Ac ₁ 変態点	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4012	東理大	田中	4 b)	2108	ed	数値と単位との間に空白を挿入	1 000°C~1 300°C → 1 000 °C~1 300 °C	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4013	東理大	田中	4 b)	2109	ed	漢字に変更	かかわる焼なまし。 → 関わる焼なまし。	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4014	東理大	田中	4 c)	3120	ed	スペルミス?	temperature → temperature	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4015	東理大	田中	4 c)	3123	ed	字句の修正?	フェライトやパーライトの → フェライト及びパーライトの	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4016	東理大	田中	4 c)	3137	ge	“鋭敏化熱処理”の対応英語は“鋭敏化”に同じ?		採用	ISO 3651-2の”sensitization heat treatment”を記載します(ステンレス協会に確認済)。	採用
三者委員会	2022/12/21	4017	東理大	田中	4 c)	3140	ed	字句の修正	過加熱 → 過熱	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4018	東理大	田中	4 c)	3204	ed	漢字に変更	わずかな変化で、 → 僅かな変化で、	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4019	東理大	田中	4 c)	3207	ed	漢字に変更	ことわりがない場合、 → 断りがない場合、	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4020	東理大	田中	4 d)	4115	ed	スペルミス?	heat treat-treatment → heat treatment	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4021	東理大	田中	JA.2.6		ge	用語は“-”でよいですか?		回答	対応用語の日本語訳ですが、用語定義から判断すると”α固溶体”と考えます。一方、金属組織学の固溶体の英語表記は、”solid solution”が一般的であり、規格利用で誤解が生じる可能性があるため、英訳を実施していません。化学分野では、固溶体を混晶(mixed crystal)と呼び、ドイツ語では金属・化学ともにミッシュクリスタルと呼ぶことがあり、ドイツ語に引きずられた可能性が有ります(参考:金属の百科事典)。次のISO規格の改訂時に指摘し、JISは解説に上記を記載します。	原案のまま
三者委員会	2022/12/21	4022	東理大	田中	JA.2.43		ge	用語番号(3213)の対応英語と異なりますが…。(ハイフンの有無)		採用	誤解を避けるために、本体の用語と揃えます(“-”を削除)。また、本体側の用語番号(3213)に(JA.2.43)を追加します。	採用
三者委員会	2022/12/21	4023	東理大	田中	JA.2.49		ed	漢数字に変更	2つの → 二つの	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4024	東理大	田中	JA.2.56		ed	漢字に変更	ともなう → 伴う	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4025	東理大	田中	JA.2.86		ed	漢字に変更	すべての → 全ての	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4026	東理大	田中	JA.2.88		ed	送り仮名の修正	吹込んだ → 吹き込んだ	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4027	東理大	田中	JA.2.90	注釈1	ed	漢字の修正	充填ガス → 充填ガス	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4028	東理大	田中	JA.2.90	注釈2	ed	“キャリア”でよいですか?	キャリア → キャリアガス	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4029	東理大	田中	JA.2.92		ge	用語は“-”でよいですか?		回答	No.21(JA.2.6)と同様です。	回答
三者委員会	2022/12/21	4030	東理大	田中	JA.2.94		ed	平仮名に変更	間隔を持つ → 間隔をもつ	採用		採用

対象規格	JIS G 0201[鉄鋼用語(熱処理)]
------	-----------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4031	東理大	田中	JA.2.105	注釈1	ed	平仮名に変更	無い場合。 → ない場合。	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4032	東理大	田中	JA.2.107		ed	漢字に変更	すべての物質 → 全ての物質	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4033	東理大	田中	JA.2.111	注釈1	ed	“示”を挿入?	数式で表する → 数式で表示する	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4034	東理大	田中	JA.2.116	注釈1	ed	平仮名に変更	浸漬時間で → 浸せき時間で	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4035	東理大	田中	JA.2.144		ed	対応英語の修正?	nitrocarburizing → nitriding	原案のまま	ISO 4885通りです。	原案のまま
三者委員会	2022/12/21	4036	東理大	田中	JA.2.159		te	“chemical”は要りませんか?	(potential) → (chemical potential)	原案のまま	ISO 4885通りです。	原案のまま
三者委員会	2022/12/21	4037	東理大	田中	JA.2.170	注釈1	ed	“(JA.2.170)”は不要では?	焼入媒体(JA.2.170)は、 → 焼入媒体は、	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4038	東理大	田中	JA.2.170	注釈1	ed	句点を削除	塩浴など。) → 塩浴など)	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4039	東理大	田中	JA.2.184	注釈1	ed	引用図の修正	図1 b)参照。 → 図JA.1 b)参照。	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4040	東理大	田中	JA.2.205		ed	漢字に変更しますか?	熱き裂 → 熱亀裂	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4041	JSA	堤	附属書JB の1		ed	d)欄には、JISで追加した内容を記載しては?	「ISO規格は、鍛造を規定していない。」→ 「JISは、鍛造を適用範囲に追加している。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4042	JSA	堤	附属書JB		ed	d)欄には、JISで追加した内容を記載しては?	「ISO規格には、簡条(分類)はない。」→ 「JISでは、分類の簡条を追加し、簡条4(用語及び定義)の 構成を記載している。」	採用		採用

対象規格	JIS G 0203[鉄鋼用語(製品及び品質)]
------	--------------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	東理大	田中	全体	対応英語	ge	英語は英式とするのですが、米式の英語表現も用いられているようです。国際規格等で広く採用されているのであれば問題はないのですが、ご確認ください。		回答	本規格は、製品規格等に引用されるので、今回の改正では、それらの規格名に極力合わせるように記載を見直ししております。また、本規格の英語記載は、あくまで参考であり、規格利用者の利便性を優先しております。	原案まま
三者委員会	2022/12/21	4002	東理大	田中	4.1.1	1108	ed	漢字に変更	ふたをし、 → 蓋をし、	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4003	JICQA	熊井	4.2.2	2110	ed	"定義"の冒頭「600mm未満」の前に"幅"が抜けています。	「600mm未満」→「幅600mm未満」又は「600mm未満の幅」	採用	2108の注釈1に揃えて、「600mm未満の幅」を採用。	採用
三者委員会	2022/12/21	4004	JICQA	熊井	4.2.3	2204	ed	"定義"に、塗料を塗装する工程が抜けています。	「合成樹脂塗料を焼き付けて」→「合成樹脂塗料を 塗装し 、焼き付けて」	修正採用	G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)などの適用範囲に合わせ、「合成樹脂塗料を塗装し焼き付けた鋼板及び鋼帯」と修正します。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4005	鉄連		4.2.5	2411	ed	用語名「熱間押し形鋼」の"し"を削除する[関連製品規格(G3101等)の記載に合致する。]	熱間押し し 形鋼→熱間押し形鋼	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4006	東理大	田中	4.2.5	2413注釈	ed	注釈番号の間違い	注釈2 → 注釈3	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4007	東理大	田中	4.3.5	3514	ed	漢字に変更	充てんする → 充填する	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4008	鉄連		4.3.5	3514~ 3518	ed	番号を修正。	3514~3618→3513~3517	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4009	東理大	田中	4.3.6	3604	ed	句点を削除	低炭素鋼線材。 → 低炭素鋼線材	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4010	東理大	田中	4.3.6	3605	ed	句点を挿入	(リムド鋼を含む) → (リムド鋼を含む。)	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4011	東理大	田中	4.3.6	3608	ed	読点を挿入	線材を用い伸線など → 線材を用い、伸線など	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4012	東理大	田中	4.3.6	3612	ed	他所の表記に合わせ、"- "を挿入(2か所)?	cold heading and cold forging → cold-heading and cold-forging	修正採用	G 3507-1他の規格名に合わせて、用語番号(3613、3614、3615)の"- "を削除します。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4013	東理大	田中	4.3.6	3622	ed	読点を挿入?	塗装し焼き付けて → 塗装し、焼き付けて	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4014	東理大	田中	4.3.6	3624	ed	"color"を削除?	with color colored → with colored	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4015	JICQA	熊井	4.3.6	3626	ed	"定義"に記載の「めっきをして」は「めっきを行って」ではないでしょうか。	「めっきをして」→めっき 行って 」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4016	JICQA	熊井	4.3.6	3627	ed	"定義"に記載の「めっきをして」は「めっきを行って」ではないでしょうか。	「めっきをして」→めっき 行って 」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4017	JICQA	熊井	4.3.8	3810 塗装ステン レス鋼板 及び鋼帯	ed	"定義"に、塗料を塗装する工程が抜けています。	「合成樹脂塗料を焼き付けて」→「合成樹脂塗料を 塗装し 、焼き付けて」	原案のまま	当該のJIS(G 3320: 塗装ステンレス鋼板及び鋼帯)に準拠した定義としております。ステンレス協会確認済みです。 ※今後の取り扱いについて、ステンレス協会と調整する。	原案まま
三者委員会	2022/12/21	4018	東理大	田中	4.3.8	3819	ed	他所の表記に合わせる。	シリコン → けい素	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4019	東理大	田中	4.3.8	3819注釈1	ed	"用"を挿入	耐衝撃工具。 → 耐衝撃 用 工具。	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4020	東理大	田中	4.3.8	3828	ed	字句の修正	粉末や(冶)金 → 粉末冶 金	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4021	東理大	田中	4.3.8	3829	ed	字句の修正、読点を挿入	や(冶)金学的に結合させ強度を → 冶金学的に結合させ、強度を	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4022	JICQA	熊井	4.3.9	3901	ed	"定義"に記載の「鋼帯又は鋼板」は"用語"及び"対応英語"の記載、並びに3903や3904の記載と逆になっています。	「鋼帯又は鋼板」→「 鋼板 又は 鋼帯 」	修正採用	G 2552(無方向性電磁鋼帯)となっており、用語名称を"電磁鋼帯又は電磁鋼板"に修正します。英語表記も同様に"sheet and strip"を"strip and sheet"に修正します。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4023	JICQA	熊井	4.3.9	3902	ed	"定義"に記載の「鋼帯又は鋼板」は"用語"及び"対応英語"の記載、並びに3903や3904の記載と逆になっています。	「鋼帯又は鋼板」→「 鋼板 又は 鋼帯 」	修正採用	上記同様。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4024	東理大	田中	4.4.1	4101 注釈4	ed	字句の修正	粉末や(冶)金など → 粉末冶 金 など	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4025	東理大	田中	4.4.1	4101 注釈2, 4	ed	"用"を挿入(3か所)	分析試料 → 分析 用 試料	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4026	東理大	田中	4.4.1	4116	ed	漢字に変更	ふくらまし、 → 膨らまし、	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4027	大同	後藤	4.4.1	4125	te	耐食性は大気以外の腐食環境下も考えられるため、従来の定義にした方がよいと思います。	「自然環境の大気中において…」→「ある環境下において…」	採用		採用

対象規格	JIS G 0203[鉄鋼用語(製品及び品質)]
------	--------------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4028	JICQA	熊井	4.4.1	4136 調質圧延	ed	"定義"に記載の"注釈1"において、調質圧延はG4304及びG4305に限定され、その他の鋼板及び鋼帯には適用されないように受取れますが、問題ないですか？	注釈1は、調質圧延の一例であることを追記	原案のまま	注釈1は、ステンレス鋼板及び鋼帯についての記載であり、問題ありません。ステンレス鋼帯及び鋼板の場合、熱処理は、焼なましに限定出来ないので、本注釈を追加しています。対象規格は、G4304及びG4305です。ステンレス協会確認済です。	原案のまま
三者委員会	2022/12/21	4029	東理大	田中	4.4.1	4137	ed	読点を挿入	一つで焼なまし後、 → 一つで、焼なまし後、	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4030	東理大	田中	4.4.1	4143	ed	小文字に変更？	Depth of → depth of	採用		採用

対象規格	JIS G 3103（ボイラ及び圧力容器用炭素鋼及びモリブデン鋼鋼板）
------	-------------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内 容	修 正 案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21										コメントなし。	

対象規格	JIS G 3140(橋梁用高降伏点鋼板)
------	-----------------------

コメントタイプ: ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	東理大	田中	11.1	a)	ed	題名に“用”を挿入?	分析試料の採り方 → 分析用試料の採り方	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4002	東理大	田中	JB.1		ge	箇条“JB.1 一般”はなくてもよいのでは? それにより、“JB.2”も削除する。		採用	JB.1(記載全て)及びJB.2(タイトル部)を削除します。	採用

対象規格	JIS G 4051（機械構造用炭素鋼鋼材）
------	------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	JICQA	熊井	8.1.2	注記	ed	同意の文章が2つ重ねて記載されているように思われます。 （“きず取り”とは”傷を除去する”ことではないでしょうか？）	「熱間圧延棒鋼及び線材のきず取りのために、機械加工を 行う場合がある。」のみでよいのでは？	修正採用	「熱間圧延棒鋼及び線材のきず部の除去のために、 機械加工を行う場合がある。」に修正します。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4002	東理大	田中	JE	9 d)欄	ed	“が、”を挿入	規定しているJISでは、 → 規定しているが、JISでは、	採用		採用

対象規格	JIS G 4052 [焼入性を保証した機械構造用鋼材 (H鋼)]
------	-----------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果	
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容		
三者委員会	2022/12/21	4001	JICQA	熊井	9.1.2		注記	ed	同意の文章が2つ重ねて記載されているように思われます。 ("きず取り"とは"傷を除去する"ことではないでしょうか?)	「熱間圧延棒鋼及び線材のきず取りのために、機械加工を行う場合がある。」のみでよいのでは？	修正採用	「熱間圧延棒鋼及び線材のきず部の除去のために、機械加工を行う場合がある。」に修正します。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4002	JICQA	熊井	10.2.1	c)	ge	ge	当初、改正案を読んだところ、10.2.1 c)において"形式試験"と言いながら、附属書JBでは"同一溶鋼単位で、JB.3によって、焼入性を報告しなければならない"と記載されており、これは出荷検査ではないか、と理解しました。 その後、事務局の丁寧なご説明により、焼入性計算値の報告は形式試験の一部ではなく、十分な試験データに基づく情報提供であり、"報告"に関する記載であること、形式試験は、受渡当事者間で"安定した製造条件を確立した"と協定できた場合に、製造業者が定めた一定の条件下で生産することを前提に、受渡の都度、試験は行わないことと理解しました。 JIS規格票を活用する全ての利害関係者に誤解が生じないよう、形式試験の一部ではなく、情報提供である焼入性計算値の報告は、附属書JBと分け、"14 報告"に記載すべきと思います。	附属書JBから、JB.1 c)及びJB.3を削除し、14 報告に記載する。	修正採用	ご認識のとおり、附属書JBは、焼入性試験(10.2.1)及び報告(簡条14)の内容を規定しています。ただし、規格利用者の利便性から、両者を同一の附属書に記載することが望ましいため、次のとおり修正します。 10.2.1 c) "形式試験は、附属書JBによる。" → "形式試験は、JB.1及びJB.2による。" 簡条14: 以下の規定を追加する。 → "なお、焼入性の形式試験を行う場合、 <u>焼入性計算値の報告は、JB.3による。</u> " 附属書JB: 次のとおり修正する。 ・附属書名: "焼入性試験の形式試験" → "焼入性の形式試験及び焼入性計算値の報告" ・JB.1 c) を削除。 ・JB.3 a): "重回帰分析から、指定された報告しなければならない。" → "重回帰分析から、同一溶鋼単位で、指定された報告しなければならない。"	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4003	東理大	田中	JB.1	a)	ed	ed	漢字に変更	もつづいた → 基づいた	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4004	東理大	田中	JC	5 d)欄	ed	ed	重複する"追加している"を削除	を追加している追加している。 → を追加している。	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4005	東理大	田中	JC	10 d)欄	ed	ed	"が、"を挿入	規定しているJISでは、 → 規定しているが、JISでは、	採用		採用

対象規格	JIS G 4053（機械構造用合金鋼鋼材）
------	------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	JICQA	熊井	8.1.2	注記	ed	同意の文章が2つ重ねて記載されているように思われます。 （“きず取り”とは”傷を除去する”ことではないでしょうか？）	「熱間圧延棒鋼及び線材のきず取りのために、機械加工を 行う場合がある。」のみでよいのでは？	修正採用	“熱間圧延棒鋼及び線材のきず部の除去のために、 機械加工を行う場合がある。”に修正します。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4002	東理大	田中	JB.2.2		ed	“鋼帯の”を挿入？	冷間圧延鋼板及び形状 → 冷間圧延鋼板及び鋼帯の形状	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4003	東理大	田中	JC	9 d)欄	ed	“が、”を挿入	規定しているJISでは、 → 規定しているが、JISでは、	採用		採用

資料4 第3回規格検討会

コメントタイプ : ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格	JIS Z 2242 (金属材料のシャルピー衝撃試験方法)
------	-------------------------------

処置案・審議結果 : 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	JICQA	熊井	C.2	d)	ed	減算の場合は「減じる」とするのではないか？	「破面領域の面積を引いて」→「破面領域の面積を減じて」	採用	Z8301 附属書B 表B.1で減じるとしていました。引くという表現はありませんでしたので、採用とします。	採用
三者委員会	2022/12/21	4002	東理大	田中	D.2		ed	数値と比率との間に空白を挿入(2か所)	破面率100% → 破面率 100 %	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4003	東理大	田中	E.2.1		ge	今後は「計量トレーサビリティ」の使用が優勢になると考えられます。	計量計測トレーサビリティ → 計量トレーサビリティ	採用	JISではどちらも使っていますが、試験規格であるJISZ2245:2021 ロックウェルロックウェル硬さ試験では計量トレーサビリティとしていました。また、niteでは計量トレーサビリティを使っていたので採用とさせていただきます。	採用
三者委員会	2022/12/21	4004	東理大	田中	E.2.2		ed	送り仮名の修正	組合わせない → 組み合わせない	採用	Z8301 9.5.2では、「組み合わせる」としていましたが、採用します。	採用
三者委員会	2022/12/21	4005	東理大	田中	E.3.3		ge	“ $u(x)$ ”を挿入？	x の不確かさは、 → x の不確かさ $u(x)$ は、	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4006	東理大	田中	E.3.5		ge	“ $u(r)$ ”を挿入？	対応する不確かさの → 対応する不確かさ $u(r)$ の	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4007	東理大	田中	JA	6.2.0A d)欄	ed	漢字に変更	ぶらさがり段落 → ぶら下がり段落	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4008	東理大	田中	JA	8.4 d)欄	ed	読点を挿入	想定しより詳細に → 想定し、より詳細に	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4009	東理大	田中	JA	9.2 d)欄	ed	漢字に変更	これにともなって、 → これに伴って、	採用	Z8301 12.1では、「伴って」としてしていますので、採用します。	採用
三者委員会	2022/12/21	4010	東理大	田中	JA	附属書D e)欄	ed	漢字に変更	わかりやすさのために → 分かりやすさのために	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4011	JSA	堤	5		ed	字句修正 (対応国際規格は、“shall be heated or cooled”です。)	「試験片は、管理された状態で指定温度に加熱又は冷却しなければならない。」→ 「試験片を、管理された状態で指定温度に加熱又は冷却しなければならない。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4012	JSA	堤	7.2		ed	字句修正 (対応国際規格では、“shall be installed and verified”で受動態であり、7.1では、“校正されなければならない”と、受動態になっています。)	「検証を行わなければならない。」→ 「検証が行われなければならない。」？	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4013	JSA	堤	9.1		ed	“試験報告書は、必要な場合に提出する。”に点線の下線が施されているので、対比表に記載すべきでは？		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4014	JSA	堤	9.1		ed	字句修正 (対応国際規格では、“could have affected the test”です。)	「試験に影響を与えらると思われる異常事態」→ 「試験に影響を与えたとと思われる異常事態」？	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4015	JSA	堤	9.2		ed	字句修正 (対応国際規格では、“may”です)	「追加することが可能である」→ 「追加してもよい」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4016	JSA	堤	C.1	注4)及び 注記1	ed	字句削除	「ISO148-1規格」→ 「ISO148-1」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4017	JSA	堤	C.1	注4)及び 注記1	ed	” の記載位置変更	「“へき開領域” (cleavage area)」→ 「“へき開領域 (cleavage area)”」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4018	JSA	堤	E.3.4		ed	字句修正	「寄与の計算の一般的で、受け入れられている方法」→ 「寄与の、一般的でかつ受け入れられている計算方法」？	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4019	JSA	堤	附属書JA の6.2.2		ed	追加した文を全文記載してはどうでしょうか	“製品規格の規定又は受渡当事者間の協定”を追加した。→“製品規格の規定又は受渡当事者間の協定”によって、ノッチ深さ2 mm及びノッチ底半径1 mmとしてもよい。”を追加した。	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4020	JSA	堤	附属書JA の8.2.0A		ed	コンマ・字句追加	「ぶら下がり段落となるため追加した。」→ 「ぶら下がり段落となるため、細分簡条の番号を追加した。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4021	JSA	堤	附属書JA の8.4		ed	コンマ追加	「自動機などを想定しより詳細に記載した。」→ 「自動機などを想定し、より詳細に記載した。」	採用		採用

資料4 第3回規格検討会

コメントタイプ : ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格	JIS Z 2242 (金属材料のシャルピー衝撃試験方法)
------	-------------------------------

処置案・審議結果: 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4022	JSA	堤	附属書JA の附属書B		ed	d)欄には、“JISでは、規定に変更した。”と記載されていますが、附属書B全体を規定に変更した旨を記載し、変更理由も記載してはどうでしょうか？ また、e)欄も変更してはどうでしょうか？	d)欄 「JISでは、規定に変更した。」→ 「ISO規格では、横膨出の求め方は参考であるが、国内取引に横膨出が使用されていることから、JISでは、規定に変更した。」 e)欄 「国内取引に使用されていることから規定とした。」→ 「国内独自の運用である。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4023	JSA	堤	附属書JA の附属書C		ed	d)欄には、“JISでは、規定に変更した。”と記載されていますが、附属書B全体を規定に変更した旨を記載し、変更理由も記載してはどうでしょうか？ また、e)欄も変更してはどうでしょうか？	d)欄 「他規格などから要求事項として引用される場合があることから、JISでは、規定とした。」→ 「ISO規格では、破面率の求め方は参考であるが、他規格などから要求事項として引用される場合があることから、JISでは、規定に変更した。」 e)欄 「技術的差異は、ない。」→ 「国内独自の運用である。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4024	JSA	堤	附属書JA の附属書C		ed	C.2のd)及びe)の点線の箇所についても、対比表に記載すべきでは？		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4025	JSA	堤	附属書JA の附属書D		ed	d)欄には、“JISでは、規定に変更した。”と記載されていますが、附属書D全体を規定に変更した旨を記載し、変更理由も記載してはどうでしょうか？ また、e)欄も変更してはどうでしょうか？	d)欄 「JISでは、規定に変更した。」→ 「ISO規格では、遷移曲線、破面率遷移温度及びエネルギー遷移温度の求め方は参考であるが、従来、JISでは、本体に規定しており、一般に使用されてきたことから、規定に変更した。」 e)欄 「従来、JISでは、本体に規定しており、一般に使用されてきたことから規定とした。」→ 「国内独自の運用である。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4026	JSA	堤	附属書JA の附属書E		ed	附属書E(吸収エネルギー値Kの測定の不確かさ)は、ISO規格にも附属書Eとして記載されているので、対比表に記載する必要はないと思います。		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4027	鉄連		表1	β_3	Te	10回目の空振り後の振り上がり角度、となっていますが、8.2.2に合わせて考えると、ここは11回目のほうが妥当なのでは、と考えます。		修正採用	JIS B 7722(金属材料のシャルピー衝撃試験—試験機の検証)表1及びISO 148-2(Metallic materials — Charpy pendulum impact test —Part 2:Verification of testing machines) table1を参考に、 β_3 の定義を“試験片がない状態で、振り子が11回連続片振り後(5往復後)の振り上がり角度”とします。 また、 K_3 についても“試験片がない状態で、振り子が11回連続片振り後(5往復後)の吸収エネルギーの読み”とします。	修正採用

対象規格	JIS G 1226（鉄及び鋼—すず定量方法—よう化物抽出分離フェニルフルオロン吸光光度法よう化物抽出分離フェニルフルオロン吸光光度法）
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	東理大	田中	10	b)~e)	ed	細別符号の間違い[b]が重複]	b) → c) c) → d) d) → e) e) → f)	採用		採用

対象規格	JIS G 1236（鉄及び鋼—タンタル定量方法— ふっ化物・ピクトリアブルー—B抽出分離吸光光度法）
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	東理大	田中	6.2		te	【質問】ふっ化水素酸の濃度を厳密にしているのはなぜですか？		回答	この規格は、猪熊らの提案[分析化学, Vol.16, 242(1988)]を基として制定されています。原著論文によれば、“Taのふっ化物錯イオンは定量的に生成するので、0.8Mとなるようにフッ化水素酸(38+62)4 mlを添加することとした。”と記載されており、これを踏襲しています。 なお、ふっ化水素酸試薬(JIS K 8819)の濃度は、46.0%~48.0%と幅があることから、(38+62)と厳密に規定するまでもないのご指摘もあることから、次回改正時の検討事項と致します。	原案まま
三者委員会	2022/12/21	4002	東理大	田中	7.1		ge	右欄のように加筆したほうがよいのでは？	7.1 樹脂製 → 7.1 樹脂製器具	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4003	東理大	田中	9.1 9.3 10 11	a), b) b)	ed	“ガラス”を挿入(5か所)	石英製 → 石英ガラス製	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4004	東理大	田中	12		ed	引用する細分簡条番号の間違い	9.2及び → 9.3及び	採用		採用

対象規格	JIS G 3442 (水配管用亜鉛めっき鋼管)
------	--------------------------

コメントタイプ : ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果 : 原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内 容	修 正 案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	東理大	田中	2, 3		ge	「改正点」に記載のJIS G 0201は引用されていませんが、よいですか？		回答	熱処理の規定がなく、JIS G 0201の引用は不要なため、原案のままとし、修正致します(議事録にて修正)。 ⇒本文修正不要、原案まま(G0201引用はしない。) 補足資料の表現を修正(G0201を削除する。)	原案まま
三者委員会	2022/12/21	4002	JICQA	熊井	6	c)	ed	「試験片を投入してから」とありますが何に投入するかを明確にする必要があると思います。	「試験片を投入してから」→「試験片を試験液に投入してから」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4003	JICQA	熊井	9.2.1	b)	ed	試験片の採り方を規定している附属書を明確にする必要があると思います。	「状試験片の採り方は、附属書 A, 附属書 B・・・」→「試験片の取り方は、それぞれ附属書A, 附属書B・・・」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4004	JICQA	熊井	附属書A	A.1	ed	「塩酸」は純粋な塩酸ではないのでJIS H 0401と同様に「試験液」の方が良いのではないのでしょうか。	「塩酸」→「試験液」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4005	東理大	田中	B.3		te	「硫酸銅五水和物」には、JIS 試薬 (99.5 % 以上、鉄0.001 % 以下) があるので、引用されることを推奨します。 採用の場合、JIS K 8983を簡条2で引用する。	硫酸銅五水和物[純度 98.5 % (質量分率) 以上、鉄 0.1 % (質量分率) 以下、及び水不溶解分 0.5 % (質量分率) 以下]36 g に対し、 → JIS K 8983に規定する硫酸銅(Ⅱ)五水和物36 gに 対し、	原案のまま	次回改正時の検討課題とさせていただきます。主査としては、引用には賛成ですが、規定値が厳しくなるため、製造会社の意見を確認する必要があります。	原案まま
三者委員会	2022/12/21	4006	東理大	田中	B.7	b) 注記	ed	送り仮名の修正	現われた → 現れた	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4007	東理大	田中	C.4		ed	送り仮名の修正	現われる → 現れる	採用		採用

対象規格	JIS G 4903（水配管用亜鉛めっき鋼管）
------	-------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	JSA	堤	まえがき		ed	「産業標準化法第30条----」は改行しないで記載する。		採用		採用

対象規格	JIS G 4904（熱交換器用継目無ニッケルクロム鉄合金管）
------	---------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	JICQA	熊井	11	a)	ed	修正漏れと思われます。	「真っすぐ」→「真っすぐで」	採用		採用

対象規格	JIS G 0801（圧力容器用鋼板の超音波探傷検査方法）
------	-------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	JSA	堤	5	注記1	ed	G 0431では、箇条3(用語及び定義)において「NDTレベル3」を定義し、箇条5(資格レベル)において「NDTレベル1及びNDTレベル2」を定義しています。 一方、Z2305では、箇条6(資格レベル)において「レベル1、レベル2及びレベル3」を規定しています。 注記1のように記載すると、JIS G 0431でもJIS Z 2305と同じように、資格レベルの箇条で、レベル1、レベル2及びレベル3が規定されている解釈される可能性があります。さらに、JIS G 0431の用語は、「NDTレベルX」として規定しておます。 JIS G 0431及びJIS Z 2305における規定内容を、別々の文で記載してはどうでしょうか？	注記1 JIS G 0431及びJIS Z 2305に、非破壊試験技術者の資格レベルとして、レベル1、レベル2及びレベル3が規定されている。 → 注記1 非破壊試験技術者の資格レベルについては、JIS G 0431では、箇条3(用語及び定義)においてNDTレベル3を定義し、箇条5(資格レベル)においてNDTレベル1及びNDTレベル2を規定している。一方、JIS Z 2305では、箇条6(資格レベル)においてレベル1、レベル2及びレベル3を規定している。	原案のまま	昨年改正したG 0582(鋼管の自動超音波探傷検査方法)、G 0584(アーク溶接鋼管の超音波探傷検査方法)他、非破壊試験JISで共通の注記としており、原案のままとさせていただきます。2023年度改正予定のG 0589(鋼管の全周自動超音波厚さ検査方法)の改正時に検討致します。	原案まま
三者委員会	2022/12/21	4002	JSA	堤	6.1		ed	字句修正	「不連続部の位置を表示可能な装置」→ 「不連続部の位置表示が可能な装置」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4003	JSA	堤	6.2.1 e)		ed	字句追加	「鋼板と探触子が適切に接触し」→ 「鋼板と探触子とが適切に接触し」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4004	東理大	田中	6.2.3	a)	ed	漢字に変更	垂直軸にかかわる → 垂直軸に関わる	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4005	JSA	堤	6.4 c)及びe)	注記	ed	「注記 ----」を2字分下げて記載する。 [c)、e)、それぞれの注記であるため]		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4006	JSA	堤	6.5.2		ed	「標準試験片 (STB-N1、STB-G V15-4及びSTB-G V15-2.8)を用いる」において、「及び」ではなく「又は」ではないでしょうか？		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4007	JSA	堤	7.6.1		ed	字句修正	「装置の機能に合わせた製造業者の選択とする。」→ 「装置の機能に合わせて製造業者が行う。」 (主語に、「選択」が記載されているため)	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4008	JSA	堤	8.3	表6 注a)	ed	「を超え、300 mm以下の場合、附属書JCによる。」について、対比表に記載すべきでは？		採用	対比表は、「JISでは、国内市場で検査対象となっている200 mmを超え300 mm以下の鋼板検査の規定を、附属書JCとして追加している。」とします。	採用
三者委員会	2022/12/21	4009	JSA	堤	8.3	表6 注b)	ed	字句修正	「括弧内の組合せの公称周波数及び振動子寸法」→ 「括弧内の公称周波数と括弧内の振動子寸法との組合せ」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4010	東理大	田中	9.4.1	b)	ed	漢字に変更	すべてを評価対象 → 全てを評価対象	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4011	東理大	田中	9.5		ed	漢字に変更	すべての項目が → 全ての項目が	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4012	東理大	田中	9.5	表13 備考	ge	「カバー率」?		採用	「カバー率を考慮して」を削除します。	採用
三者委員会	2022/12/21	4013	東理大	田中	JB		ge	題名に「及び表示」とありますが、言及がなく、不要ではないでしょうか？[JIS G 0802の附属書JC参照] また、JIS G 0901の附属書JBと全く同じ内容ですが、このままの表記でよいですか？		採用	附属書JBの題名は変更しますが、内容は、このままとします。	採用
三者委員会	2022/12/21	4014	JSA	堤	附属書JB		ed	対比表では、「対比試験片 (RB-E)による二振動子垂直探触子の要求性能を規定している。」と記載していますが、附属書JBの題名は「二振動子垂直探触子の性能及び表示」となっています。附属書JBでは、「表示」については規定されていないのでは？規定されていない場合には、附属書の題名を変更しては？		採用		採用

対象規格	JIS G 0801（圧力容器用鋼板の超音波探傷検査方法）
------	-------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4015	JSA	堤	附属書JD の 3 c)欄 d) 欄		ed	c)欄に「追加」と記載されていますが、G0901のc)欄では「削除/追加」と記載されています。簡条3では、削除及び追加がされていると思いますので、削除と追加とに分けて記載してみました。ご検討ください。	c)欄 削除 d)欄 →「ISO規格では、欠陥及び不感帯の用語が定義されているが、JISでは、削除している。」? C)欄 追加 d)欄 →「JISでは、国内で用いられているE形対比試験片(RB-E)を追加するとともに、個別に規定した用語の定義以外は、JIS G 0202, JIS G 0203, JIS G 0431及びJIS Z 2300を引用した。」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4016	JSA	堤	附属書JD の 5 d)欄		ed	簡条5で点線の下線が施されているのは、「JIS G 0431, JIS Z 2305」だけで、「レベル3による手順承認」は推奨事項に変更してはいないと思います。 対比表のd)欄の記載内容を見直していただけませんか。		採用	改正途中の変更前の記載が残っておりました。「一致」しているので、行全体を削除します。 対応国際規格では“in accordance with ISO 9712, ISO 11484 or an appropriate national/regional standard”と規定されており、JIS G 0431, JIS Z 2305を引用しても技術的な差異がないと考えます。	採用
三者委員会	2022/12/21	4017	JSA	堤	附属書JD の 6 d)欄		ed	「二振動子垂直探触子の距離増幅直線性を評価する試験片」及び「垂直探触子の探傷感度を設定する標準試験片」に変更した理由を記載できないでしょうか？		採用	“ISO規格では、60 mm以上の鋼板にも二振動子が適用可能としている。”を“ISO規格では、60 mm以上の鋼板にも二振動子が適用可能としているが、国内では、屋根角がついた二振動子が主流であり、厚肉材の探傷には適さないこと、また、板厚60 mmを超える領域は、垂直探触子の探傷が一般的であるため、厚さ60 mmまでに抑えている。”(2008年版解説)とします。	採用
三者委員会	2022/12/21	4018	JSA	堤	附属書JD の 8		ed	「ISO規格では、200 mm以上は、受渡当事者間の協定によると規定しているが、JISでは、附属書JCによるに変更している。」ことを追加すべきでは？	d)欄 ISO規格では、200 mm以上は、受渡当事者間の協定によると規定しているが、JISでは、附属書JCによるに変更している。 e)欄 「国内独自の運用であり、ISOへの提案は行わない。」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4019	JSA	堤	附属書JD の 9 d)欄		ed	字句修正	「設定する。」→ 「設定している。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4020	JSA	堤	附属書JD の 10 d)欄		ed	b)欄でISO規格では規定されていないことが分かるため、「ISO規格には規定がないが、」は不要では？		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4021	JSA	堤	附属書JD の 10 d)欄		ed	字句修正	「規定している」→ 「追加している」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4022	JSA	堤	附属書JD の 11 d)欄		ed	字句修正 「JISでは、受渡当事者間の協定によって報告事項を選択する」に変更した理由を記載できないでしょうか。	「ISO規格は、すべての項目を報告としているが、JISでは、選択を可能としているすべての項目を報告としているが、」→ 「ISO規格では、この簡条に記載されている全ての項目を報告としているが、JISでは、〇〇のため、受渡当事者間の協定によって報告事項を選択する旨に変更している。」?	修正採用	JIS G 0582及びJIS G 0584と同様に、“検査報告事項は、ISO規格と一致しているが、JISでは、工場内のデータの授受のケースも考慮し、必要な項目を選択できることとしている。”とします。	修正採用

対象規格	JIS G 0801（圧力容器用鋼板の超音波探傷検査方法）
------	-------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4023	JSA	堤	附属書JD の 附属書JA d)欄		ed	字句修正	「JISでは、対比試験片(RB-E)を追加している。」→ 「JISでは、国内市場で使用されている対比試験片(RB-E) の材料並びに形状及び寸法を、附属書JAとして追加して いる。」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4024	JSA	堤	附属書JD の 附属書 JA, JB及 びIC		ed	字句修正	「JISでは必要であり、規定している。」→ 「国内独自の運用であり、ISOへの提案は行わない。」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4025	JSA	堤	附属書JD の 附属書JB d)欄		ed	字句修正	「二振動子垂直探触子の要求性能を規定している。」→ 「二振動子垂直探触子の要求性能を、附属書JBとして追 加している。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4026	JSA	堤	附属書JD の 附属書JC d)欄		ed	「ISO規格では、200 mm以上は、受渡当事者間の協定に よるが、」は、対比表の箇条8の箇所に記載し、この欄には 記載しないことにはどうでしょうか？	「ISO規格では、200 mm以上は、受渡当事者間の協定に よるが、JISでは規定している。」→ 「JISでは、国内市場で検査対象となっている200 mmを超 え300 mm以下の鋼板検査の規定を、附属書JCとして追 加している。」?	採用		採用

対象規格	JIS G 0901（建築用鋼板及び平鋼の超音波探傷試験による等級分類及び判定基準）
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4001	JSA	堤	5	注記1	ed	G 0431では、簡条3(用語及び定義)において「NDTレベル3」を定義し、簡条5(資格レベル)において「NDTレベル1及びNDTレベル2」を定義しています。 一方、Z2305では、簡条6(資格レベル)において「レベル1、レベル2及びレベル3」を規定しています。 注記1のように記載すると、JIS G 0431でもJIS Z 2305と同じように、資格レベルの簡条で、レベル1、レベル2及びレベル3が規定されている解釈される可能性があります。さらに、JIS G 0431の用語は、「NDTレベルX」として規定しておます。 JIS G 0431及びJIS Z 2305における規定内容を、別々の文で記載してはどうでしょうか？	注記1 JIS G 0431及びJIS Z 2305に、非破壊試験技術者の資格レベルとして、レベル1、レベル2及びレベル3が規定されている。 → 注記1 非破壊試験技術者の資格レベルについては、JIS G 0431では、簡条3(用語及び定義)においてNDTレベル3を定義し、簡条5(資格レベル)においてNDTレベル1及びNDTレベル2を規定している。一方、JIS Z 2305では、簡条6(資格レベル)においてレベル1、レベル2及びレベル3を規定している。	原案のまま	昨年改正したG 0582(鋼管の自動超音波探傷検査方法)、G 0584(アーク溶接鋼管の超音波探傷検査方法)他、非破壊試験JISで共通の注記としており、原案のままとさせていただきます。2023年度改正予定のG 0589(鋼管の全周自動超音波厚さ検査方法)の改正時に検討致します。	原案まま
三者委員会	2022/12/21	4002	JSA	堤	6.1		ed	字句修正	「不連続部の位置を表示可能な装置」→ 「不連続部の位置表示が可能な装置」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4003	JSA	堤	6.2.1 e)		ed	字句追加	「鋼板と探触子が適切に接触し」→ 「鋼板と探触子とが適切に接触し」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4004	東理大	田中	6.4		ed	"次のような"を挿入しますか？	自動探傷を行う場合は、鋼板又は → 自動探傷を行う場合は、次のような鋼板又は	修正採用	"次の、"とします。"次のような"の場合、"～など"のように例示のニュアンスになるため。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4005	JSA	堤	6.4 c)及び e)	注記	ed	「注記 -----」を2字分下げて記載する。 [c)、e)、それぞれの注記であるため]		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4006	JSA	堤	6.5.2		ed	「標準試験片(STB-N1、STB-G V15-4及びSTB-G V15-2.8)を用いる」において、「及び」ではなく「又は」ではないでしょうか？		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4007	JSA	堤	8.3	表3 注a)	ed	字句修正	「括弧内の組合せの公称周波数及び振動子寸法」→ 「括弧内の公称周波数と括弧内の振動子寸法との組合せ」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4008	東理大	田中	9.6.1		ed	数値と単位との間に空白を挿入(2か所)	1m → 1 m	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4009	東理大	田中	JB		ge	題名に"及び表示"とありますが、言及がなく、不要ではないでしょうか？[JIS G 0802の附属書JC参照] また、JIS G 0801の附属書JBと全く同じ内容ですが、このままでよいですか？		採用	附属書JBの題名は変更しますが、内容は、このままとします。	採用
三者委員会	2022/12/21	4010	JSA	堤	附属書JB		ed	対比表では、「対比試験片(RB-E)による二振動子垂直探触子の要求性能を規定している。」と記載していますが、附属書JBの題名は「二振動子垂直探触子の性能及び表示」となっています。附属書JBでは、「表示」については規定されていないのでは？規定されていない場合には、附属書の題名を変更しては？		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4011	JSA	堤	附属書JC の 3 c)欄 d) 欄		ed	c)欄に「削除/追加」と記載されていますが、削除と追加とを分けて記載してみました。ご検討ください。	c)欄 削除 d)欄 →「ISO規格では、欠陥及び不感帯の用語が定義されているが、JISでは、削除している。」? C)欄 追加 d)欄 →「JISでは、国内で用いられているE形対比試験片(RB-E)を追加するとともに、個別に規定した用語の定義以外は、JIS G 0202、JIS G 0203、JIS G 0431及びJIS Z 2300を引用した。1?」	採用		採用

対象規格	JIS G 0901（建築用鋼板及び平鋼の超音波探傷試験による等級分類及び判定基準）
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4012	JSA	堤	附属書JC の 5 d)欄		ed	箇条5で点線の下線が施されているのは、「JIS G 0431、JIS Z 2305」だけで、「レベル3による手順承認」は推奨事項に変更していません。 対比表のd)欄の記載内容を見直していただけないでしょうか。		採用	改正途中の変更前の記載が残ってしまいました。「一致」しているので、行全体を削除します。 対応国際規格では“in accordance with ISO 9712, ISO 11484 or an appropriate national/regional standard”と規定されており、JIS G 0431、JIS Z 2305を引用しても技術的な差異がないと考えます。	採用
三者委員会	2022/12/21	4013	JSA	堤	附属書JC の 6 d)欄		ed	「二振動子垂直探触子の距離増幅直線性を評価する試験片」及び「垂直探触子の探傷感度を設定する標準試験片」に変更した理由を記載できないでしょうか？		採用	“ISO規格では、60 mm以上の鋼板にも二振動子が適用可能としている。”を“ISO規格では、60 mm以上の鋼板にも二振動子が適用可能としているが、国内では、屋根角がついた二振動子が主流であり、厚肉材の探傷には適さないこと、また、板厚60 mmを超える領域は、垂直探触子の探傷が一般的であるため、厚さ60 mmまでに抑えている。”(2008年版解説)とします。	採用
三者委員会	2022/12/21	4014	JSA	堤	附属書JC の 7 c)欄及 びd)欄		ed	c)欄に「追加/変更」と記載されていますが、追加と変更とを分けて記載し、削除及び追加とした理由を記載してはどうでしょうか？		採用	c)欄 削除 d)欄 ISO規格では、探傷カバー範囲を規定しているが、JISでは、鋼板に加えて幅の狭い平鋼も対象としているため、探傷線だけを規定し、それ以外は、削除している。(2010年版解説) c)欄 追加 d)欄 JISでは、平鋼の探傷カバー範囲を従来から追加している。	採用
三者委員会	2022/12/21	4015	JSA	堤	附属書JC の 8 d)欄		ed	変更した理由を記載できないでしょうか？		採用	ISO規格では、厚肉材にも二振動子が適用可能としているため、対比試験片による感度調整を規定している。国内では、屋根角がついた二振動子が主流であり、厚肉材の探傷には適さず、垂直探触子の探傷が一般的であるため、JISでは、二振動子垂直探触子の場合、対比試験片で、垂直探触子の場合、標準試験片での感度調整を規定している。	採用
三者委員会	2022/12/21	4016	JSA	堤	附属書JC の 9 c)欄及 びd)欄		ed	c)欄に「削除/追加」と記載されていますが、削除と追加とを分けて記載し、削除及び追加とした理由を記載してはどうでしょうか？		採用	c)欄 削除 d)欄 ISO規格では、きずの大きさ及び密集度で鋼板内部、四周辺部それぞれ4レベルの判定基準を設定しているが、JISでは、市場の混乱が予想されることから、この部分の整合化については見送り、削除している。(2010年版解説) c)欄 追加 d)欄 JISでは、鋼板内部だけ探傷感度レベルによって、中きず及び重きずに分類している。また、評価の等級は、2レベルを設定し、占積率で評価を行う規定を追加している。	採用
三者委員会	2022/12/21	4017	JSA	堤	附属書JC の 10 d)欄		ed	b)欄に「一」と記載されているので、「ISO規格には規定がないが、」は不要では？		採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4018	JSA	堤	附属書JC の 10 d)欄		ed	JISで、溶接補修した部分の補修結果の確認方法を追加した理由を記載できないでしょうか		採用	溶接補修自身については、この規格の範囲外であるが、溶接補修部についても同一の探傷条件で試験を行わなければならないことを明確化するために、JISでは、溶接補修した部分の補修結果の確認方法を規定している。(2010年版解説)	採用

対象規格	JIS G 0901（建築用鋼板及び平鋼の超音波探傷試験による等級分類及び判定基準）
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内 容	修 正 案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2022/12/21	4019	JSA	堤	附属書JC の 11 d)欄		ed	字句修正 「JISでは、受渡当事者間の協定によって報告事項を選択する」に変更した理由を記載できないでしょうか。	「ISO規格は、すべての項目を報告しているが、JISでは、選択を可能としているすべての項目を報告しているが、」→ 「ISO規格では、この箇条に記載されている全ての項目を報告しているが、JISでは、〇〇のため、受渡当事者間の協定によって報告事項を選択する旨に変更している。」?	修正採用	JIS G 0582及びJIS G 0584と同様に、“検査報告事項は、ISO規格と一致しているが、JISでは、工場内のデータの授受のケースも考慮し、必要な項目を選択できることとしている。”とします。	修正採用
三者委員会	2022/12/21	4020	JSA	堤	附属書JC の 附属書JA d)欄		ed	字句修正	「JISでは、対比試験片(RB-E)を追加している。」→ 「JISでは、国内市場で使用されている対比試験片(RB-E)の材料並びに形状及び寸法を、附属書JAとして追加している。」	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4021	JSA	堤	附属書JC の 附属書JA 及びJB e)		ed	字句修正	「JISでは必要であり、規定している。」→ 「国内独自の運用であり、ISOへの提案は行わない。」?	採用		採用
三者委員会	2022/12/21	4022	JSA	堤	附属書JC の 附属書JB d)欄		ed	字句修正	「二振動子垂直探触子の要求性能を規定している。」→ 「二振動子垂直探触子の要求性能を、附属書JBとして追加している。」	採用		採用